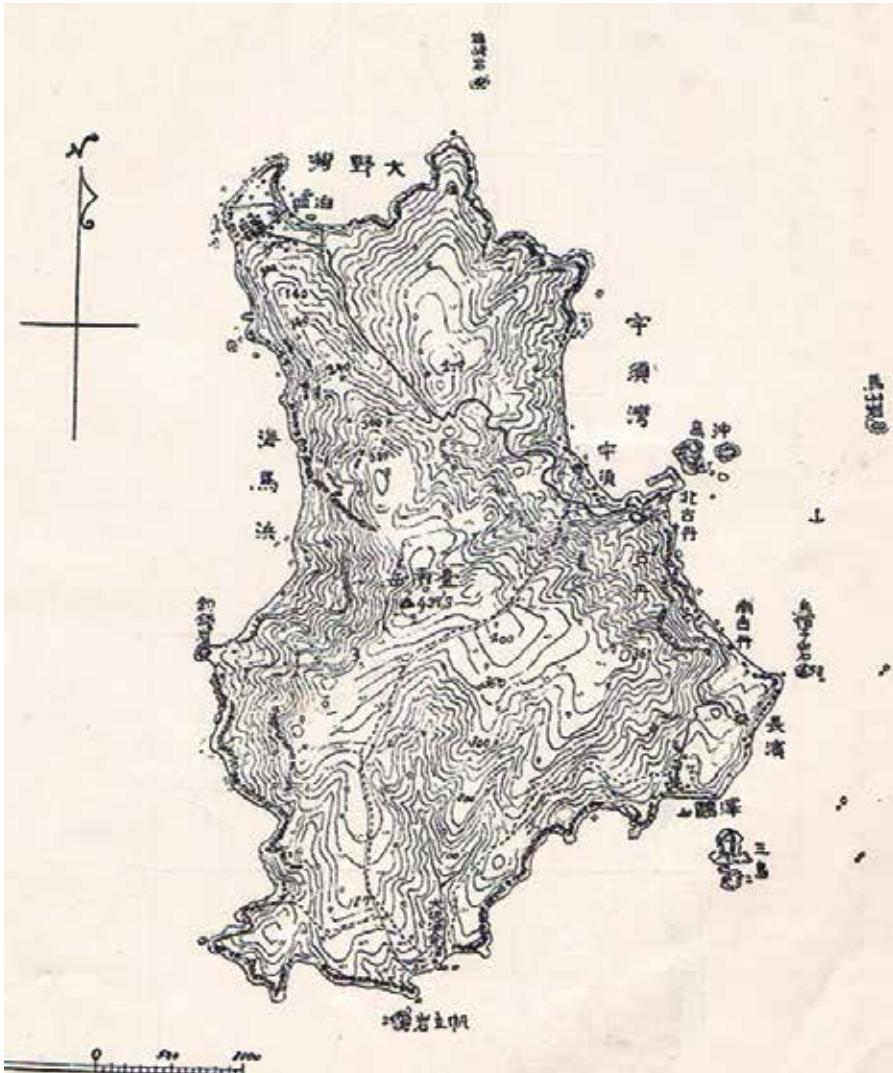


からふと
サハリン（樺太）の西の海上にロシア名モネロン島と
いう小さな島があります。

りょう かいばとう
日本領のときは海馬島といいました。



かいばとう
海馬島の位置



かいばとう ち ず
海馬島の地図

にちろ　むじんとう　ゆうし
日露戦争の時に、この小さな無人島を億太郎が有志と共に
むけつせんりょう　りょうど　ぎょぎょう
に無血占領(※93)し、日本の領土となつた後、ニシン漁業
を行ひながら村作りを積極的に行いました。

こうきょうしせつ　せいび　とう
神社や学校などの公共施設の整備や、自分の事業に投
し　けいひ　げんざい
資した経費は、約 70 万円（現在の 15 億円以上）にのぼ
るといわれます。

しゅうし
しかし、事業の収支が見合つっていたわけではありません。
ねんねん　と　しきん　かいしゅう
年々ニシンも獲れなくなり、資金の回収は思うように
いかなかつたらしいのです。

※93 無血占領
ぎせいしゃ　りょうど　せんりょう
犠牲者を出さずに領土を占領すること。

かいばとう じょうねつ さいさん どがいし
ただ、億太郎の海馬島にかける情熱は、採算を度外視
(※94) して、亡くなるまで続けられました。

かいばむら そんせい
大正 11 年 (1915) には、この島が海馬村として村制が
しかれ、億太郎はいつしか「海馬島王」と呼ばれるようになっていました。

かいばとう こうせき
この海馬島の開発に功績があったことで、大正 14 年
(1918) 8 月 12 日、樺太の視察に訪れていた摂政宮殿下
(※95) のち しょうわてんのう めしかん かいばとう いそうらわん
(後の昭和天皇) のお召艦が海馬島の五十浦湾にお
立ち寄りになりました。億太郎を艦上に呼び、海馬島の
じょうきょう かんじょう よ かいばとう
状況をお聞きになり、お菓子を下賜(※96)するという、当
時の国民としては最高の栄誉を与えられたのです。

※94 度外視

問題にしないこと、無視すること。

※95 摂政宮殿下

てんのう ひょうき こうむ てんのう だいり つと こうたいし
天皇が病気などで公務ができないときに、天皇の代理を務める皇太子。

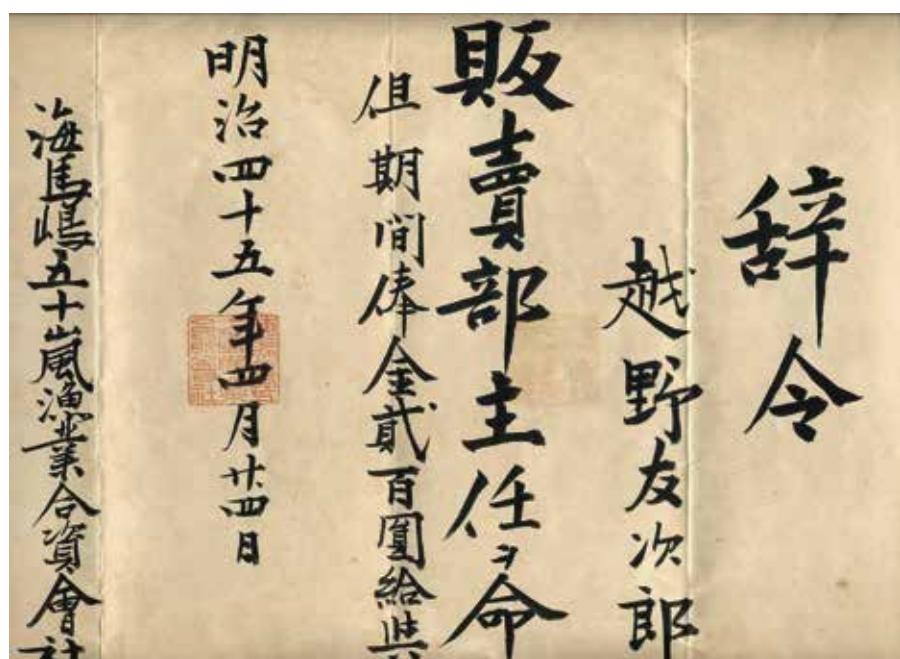
※96 下賜

てんのう みぶん みぶん
天皇など身分の高い人が、身分の低い人に物を与えること。

かし
かいばとうみん
いただいたお菓子は同じ形のものを作り、海馬島民に
くば
えいよ
配り、みんなでその栄誉を分け合いました。

ちょうせん
りょう
その他、朝鮮でもニシン漁を手がけましたが、億太郎
の死によって全てが幻となつたのです。

かいばとう
きゅう　れんりょう
海馬島は、昭和20年(1945)の終戦により、旧ソ連領
げん　りょう
(現ロシア領)となり、現在は再び無人島となつてしま
いました。



かいばとう　ぎょぎょうごうし　じれい
海馬島の五十嵐漁業合資会社の辞令



かいばとう
海馬島五十嵐漁場



かいばとういそうらわん
海馬島五十浦湾に停泊する 摂政宮お召艦